

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：17102

研究種目：挑戦的研究（開拓）

研究期間：2017～2023

課題番号：17H06182・20K20274

研究課題名（和文）満洲語の歴史社会言語学的研究—言語学と歴史学からの解明—

研究課題名（英文）Historical and sociolinguistic study of the Manchu language

研究代表者

久保 智之（KUBO, Tomoyuki）

九州大学・人文科学研究院・特任研究員

研究者番号：30214993

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 19,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、言語学と歴史学の協働により、満洲語（マンジュ語）やシベ語の歴史的発展の解明に貢献した。また満洲語（マンジュ語）資料を使ったジュンガル遊牧政権の実態の解明、満洲人の測量や絵図作成の実態の解明に貢献した。

国際共同研究については、中国、チェコ、アメリカ、台湾、日本で国際研究集会を開催し、各国の研究者と学術交流を進展させることができた。研究期間の後半は、コロナ禍のもとでの研究となったが、特に分担者 承志の努力により、インターネットを利用して、世界各地のシベの人々とのネットワークを構築できたのは、大きな成果であったと言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

満洲語（マンジュ語）は、膨大な歴史文献を有する。ただ、満洲語の母語話者は、今やほぼ、いなくなってしまった（現在中国に1千万人以上いる満洲族は、ほとんどが漢語（中国語）を母語としている）。その満洲語と言語学的に近い関係にあるシベ語は、現在、中国新疆ウイグル自治区の北西のイリ地区で、2万人程度のシベ族の話者によって話されているに過ぎない、いわゆる「危機言語」である。満洲語の研究とシベ語の研究は、相互に補完し合う関係にある。この意味で、膨大な満洲語の歴史文献の解明には、話者数が少なくなってしまったシベ語の研究が欠かせないのである。

研究成果の概要（英文）：This study has contributed to revealing the details of historical development of the Manchu (manju) language and the Sibe language by the cooperation of linguists and historians. This study has also contributed to revealing the aspects of Jungar politics, and the aspects of map creation in the Manchu(manju) dynasty, using Manchu (manju) historical documents.

To mention the international cooperative study, we held several international conferences in China, Czech, the United States, Taiwan, and Japan, to promote the international academic exchanges.

In the latter half of the study period, we were under the influence of COVID 19, but even under such a difficult condition, we, especially by the effort of Professor Cheng Zhi, have been able to establish world-wide network of the Sibe people, using internet

研究分野：言語学

キーワード：言語学と歴史学 満洲語 マンジュ語 シベ シベ語 ジュンガール政権 地図制作

1. 研究開始当初の背景

満洲語（マンジュ語とも。アルタイ諸語のうちの満洲・トゥングース諸語の一言語）は、中国清朝を興した満洲族の言語である。満洲語は清朝において公用語とされ、行政の場でも用いられたため、16世紀末から20世紀初頭に至るまで、膨大な文献が残されている。満洲語で書かれた資料には、清朝の正史を記録した実録や、日々行政の場でやり取りされる文書である档案（とうあん）、満洲語を教授する文法書や辞書、漢語（中国語）の四書五経や小説の翻訳等、様々なジャンルのものがあり、これは少数民族が興した王朝であるという清朝の性格を反映している。

このように満洲語で書かれた資料は膨大であり、かつ多彩なものが残されているが、口語の話者は数えるほどしかおらず、危機的な状況にある。現在、中国全土に満洲族は一千万人程度いるが、殆どが言語的・文化的に漢化してしまい、漢語しか話さなくなっている。唯一の例外は、260年前に中国東北地方から、現在の中国新疆ウイグル自治区に移住させられたシベ族の言語、シベ語である。シベ族は満洲族と異なる民族であるものの、彼らの話すシベ語は満洲語の一方言ともいえる程似ており、過去の研究では「満洲語口語」とも呼ばれている。話者は2万人あまりと推定され、口語の満洲語の話者がほぼいなくなっている状況に鑑みると、現代に残る貴重な音声言語だと言える。

2. 研究の目的

これまで純粋な言語学的研究からのみでは十分に解明できなかった満洲語の諸問題を、膨大に残る満洲語の歴史的な文書から、歴史学的手法により明らかにできる情報を使って解明することにある。具体的には、満洲語の正書法が決まる以前（1630年代以前）の時代の満洲語文献に見られる単語の表記のゆれや、名詞・動詞の変化形のゆれ、現代の満洲語において方言であるとされる個人差を、歴史文献の記述から歴史学的手法により知られる筆者の情報や、筆者個人の言語使用の実態、その背景となる清朝の言語政策や清朝期から現在に至るまでの民族の分布や移動などの社会状況から、解明しようとするものである。

3. 研究の方法

歴史的な文書、中でも档案の記述から、規範（化）に相当する言語政策の存在を歴史学的に立証する。歴史学的手法により言語変化をもたらす外的要因を明示的に明らかにすることにより、これまであいまいな形でしか捉えることのできなかった、通時的な言語変化や共時的なゆれの原因を、より明示的かつ実証的に解明することを目指す。

4. 研究成果

(1) 研究成果の概要

本研究課題では、満洲語とシベ語について、言語学と歴史学の面から、種々の言語接触、民族接触についての研究を行なった。以下、時系列に沿って研究成果について述べる。

2017年度から始まった本研究課題は、まず、言語学の面では、シベ語の音韻論・形態論・統語論・意味論について、台湾在住のシベ族の言語コンサルタントの協力を得て調査を進め、特

に、助詞(=ye' <具格>, =ci' <方向格>)の音韻論的特徴を確認した(ここで台湾行きを選択したのは、中国新疆ウイグル自治区における少数民族の調査が、外国人には、ほぼ不可能となった状況を打開するためであった)。また、シベ語・満洲語の方言差を明らかにするため、シベ語の方言ごとの談話データ(4時間*8地点)を採録し、書き起こしを行なった。さらに、シベ語出版物の保存と研究の便のため、電子化作業を進め、1950年代からの出版物の約1万ページ分のスキャンを完了した。

歴史学の面では、満洲語文書資料を用いて、ジューンガル遊牧政権の実態と満洲人の大地測量・絵図作成の実態を明らかにした。これらの実証研究を行なうために、満文録副奏折のローマ字転写データを作成した。

2018年度には、言語学の面では、引き続き台湾在住のシベ族を言語コンサルタントとして、調査研究を進めた。これに加えて、オーストラリアのシドニーをはじめとする数カ所を、代表者、分担者、および協力者である中国・東北師範大学の庄声教授で訪問し、中国新疆ウイグル自治区から彼の地に移住したシベ族数十名と対面調査を行なった。その中には、高齢の言語コンサルタントで民話などを多数記憶しているシベ族もあり、今後ともオーストラリアでの調査研究を継続していく必要が痛感された。また、2017年度に採録し書き起こした資料を元に、シベ語・満洲語の方言データベースを作成するため、データベースソフトの作成を行なった。さらに、2017年度に続き、シベ語出版物の保存と研究の便のため、電子化作業を進めた。2017年度と同様に、1950年代からの出版物の1万ページ分のスキャンを完了した。

歴史学の面では、清朝における地図製作とジューンガル遊牧社会との関係に関する論文や、石碑に刻まれた「喇嘛説」満洲語部分と満洲語『金史』の編纂に関する論文を執筆した。

2019年度には、言語学の面では、シベ語出版物の収集、デジタル化を行なうとともに、目録を作成した。これは、オンライン・リソースとして公開している：シベ語出版物総合目録 <https://sibebithe.aa-ken.jp/>。また、シベ語と満洲語の対照研究・比較研究を行なった。音韻論的な相違が見られるが、これは少なくとも一部は、シベ語の周囲で話されているチュルク諸語の影響である可能性があることを指摘した。このほか、満洲語とツングース諸語の動詞活用の比較研究を行ない、満洲語独自の発展についても明らかにした。

歴史学の面では、分担者の承志が中心となって、ハーバード大学の Mark Elliott 教授らとのセミナーなどを行なったが、詳細は次節で述べる。

2020年度には、言語学の面では、引き続き、シベ語文法(音韻論、形態論、統語論、意味論を含む)の研究を行ない、現代ウイグル語やモンゴル語、また満洲語との対照研究、比較研究を行なった。また、本格的なコロナ禍のもとでの研究教育となり、オンラインで日本国内および新疆ウイグル自治区のシベ族を繋いだ、言語学の授業を行なった。補助動詞を対象に、文法変化と周辺言語との接触のありかたの解明に向けた調査研究も行なった。

歴史学の面では、満洲・シベと深く関わりのあるジューンガル遊牧集団の中核集団である「ウリャンハイ=オトク」の実態を解明した。「ウリャンハイ=オトク」集団に関しては、漢籍に僅かな記録しかなかったが、モンゴル文字、満洲語で書かれた文書資料には、多くの記載が残されており、その文書全体を解読したところ、満洲語文書100件が見つかった。これらの資料を分析して「ウリャンハイ=オトク」遊牧集団の興亡の歴史を明らかにした。

2021年度には、言語学の面では、引き続き、シベ語文法(音韻論、形態論、統語論、意味論を含む)の研究を行ない、現代ウイグル語やモンゴル語、満洲語との対照研究、比較研究を行なった。また、前年度に引き続き、補助動詞を対象に、文法変化と周辺言語との接触のありか

たの解明に向けた調査研究を行なった。さらに、古典満洲語と現代シベ語との間の文法の比較・対照研究のための材料として、17世紀初頭の満洲語資料の訳注を行ない、出版した。

2022年度には、言語学の面では、前年度に引き続き、シベ語の方言間の差異や、現代ウイグル語やモンゴル語、満洲語との対照研究、比較研究を行なった。具体的には、引き続きオンラインで中国新疆ウイグル自治区のシベ語の音韻論・形態論の調査を行なった。また、1950年代から60年代に出版されたシベ語の書籍を調査し、比較的初期の、規範化が十分には進んでいないシベ語文語の特徴を明らかにしようと試みた。

また、引き続き補助動詞を対象に、文法変化と周辺言語との接触のありかたの解明に向けた調査研究を行なった。また、古典満洲語と現代シベ語との間の文法の比較・対照研究のための材料として、17世紀初頭の満洲語資料の訳注の改訂作業を行ない、出版した。

2023年度には、数年ぶりに、ベルリン国立図書館所蔵の満洲語文献の調査や、台湾在住のシベ族のシベ語文法の調査を再開することができた。

(2) 国際共同研究について

前節と同様に、時系列に沿って、国際共同研究にかかる研究成果について述べる。

2018年1月には、台北の中央研究院・歴史語言研究所で、「満語・錫伯語(シベ語)的語言と歴史：回顧と展望」と題する国際シンポジウムを開催した。代表者・分担者と、協力者である東北師範大学の庄声教授が論文発表を行ない、研究者・大学院生など数十名の聴衆の参加も得て、活発な学術交流を行なった。

2018年3月16日には、中国長春の東北師範大学・歴史文化学院(劉曉東院長)主催により「清代満文档案と錫伯語時空対話」と題するシンポジウムが同大学で開催され、代表者が講演を行なった。同17-18日には、協力者である同大学の庄声教授の協力を得て、同大学において、「満洲族錫伯族語言歴史文化国際研討会」を開催した(東北師範大学と九州大学の共催。九州大学のグラントも得た)。中国各地(新疆ウイグル自治区を含む)および台湾、ドイツ、日本から三十数名の研究者が論文発表を行ない、研究者・大学院生など数十名の聴衆の参加も得て、活発な学術交流を行なった。

2018年9月には、九州大学の伊都キャンパス移転完成記念行事の一環である、国際シンポジウム「アジアにおける人の移動と人文学的変容」において、代表者・分担者と、協力者である中国・東北師範大学の庄声教授が発表を行ない、活発な学術交流を行なった。

2018年10月には、カレル大学(チェコ共和国、プラハ)で開催された The 2nd International Conference of Sibe Studies において、代表者・分担者と、協力者である中国・東北師範大学の庄声教授が発表を行ない、活発な学術交流を行なった。

2019年度には、分担者の承志が中心となって、代表者、分担者の児倉、協力者の庄声(中国・東北師範大学)が参加して、以下の a-c の研究会を開催した：

a. Manchu Summer Workshop at the Center for Eurasian Cultural Studies (Haneda Memorial Hall), Graduate School of Letters, Kyoto University, July 29-August 2, 2019.

b. 「グローバルな視点でみるユーラシア大陸：第五回清朝と内陸アジア国際学術研究会」2019年8月3日-4日、京都大学羽田記念館。

c. From Literary to Vernacular: A Workshop on Manchu/ Sibe Language and Archives, Harvard University, August 26-30, 2019.

このハーバード大学での国際研究会は、分担者の承志が中心となって、代表者・分担者・協力

者の4名全員が参加し、ハーバード大学の Mark Elliott 教授と共に開催したものである。

2020年度には、オンライン化により国際会議となった満族史研究会第35回大会においてシンポジウムを企画、および第9回国際シベ語研究会を企画した。

特筆すべきは、2020年度5月より、ほぼ毎週1回、zoom で全世界のシベ族、およびシベ研究者を繋ぎ、シベ語でオンラインの対談を実施したことである。2020年度は開催40回近くを数えた。分担者の承志が、対談相手の選定と対談の司会を行ない、毎回さまざまなシベ人士に登場願って行なった。また、現地のシベ族との協働により、各地のシベ族の談話資料の採録を行なった。コロナ渦のなかで、現地調査や国際学会開催がままならない中、シベのネットワーク拡大に大きく貢献するとともに、シベ語という消滅危機言語の記録としても、大変貴重なデータを蓄積したと言える。次節でも詳述する。

(3) インターネットを使った国際ネットワーク構築の試みについて

コロナ禍でインターネットを使ったシベ語の調査、シベ族のコンサルタントを招じての授業などを行なったが、特に以下の試みが特筆に値する。

2021年度には、分担者の承志が中心となって、2020年度5月より、「週日錫伯語対談」として、ほぼ毎週1回、zoom で全世界のシベ族、およびシベ研究者を繋ぎ、シベ語でオンラインの対談を実施した。2021年度は開催40回近くを数えた(2020年度からの通算では80回近く)。分担者の承志が、対談相手の選定と対談の司会を行ない、毎回さまざまなシベ人士に登場願って行なった。また、現地のシベ族との協働により、各地のシベ族の談話資料の採録を行なった。コロナ渦のなかで、現地調査や国際学会開催がままならない中、シベのネットワーク拡大に大きく貢献するとともに、シベ語という消滅危機言語の記録としても、大変貴重なデータを蓄積したと言える。

2022年度にも、「週日錫伯語対談」は引き続き、ほぼ毎週1回のペースで開催され、zoom で全世界のシベ族、およびシベ研究者を繋ぎ、シベ語でオンラインの対談を実施した。分担者の承志が、対談相手の選定と対談の司会を行ない、毎回さまざまなシベ人士に登場願って行なった。2022年度は、4月の第73回に始まり、年度末の3月には、第107回となった。内容は、シベの歴史・文化に広くおよび、シベ・満洲の歴史研究者や、シベ語出版物の出版に従事した人士など、専門性の高い仕事についての対談も織り込まれていた。コロナ渦のなかで、現地調査や国際会議開催がままならない中、シベのネットワーク拡大に大きく貢献するとともに、シベ語という消滅危機言語の記録としても、大変貴重なデータを蓄積したと言える。

2020年度5月に開始した「週日錫伯語対談」は、2024年1月末で121回となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Norikazu Kogura	4. 巻 25
2. 論文標題 On the sentence-final clitic =lya[ng]e in Sibe: Emergence of mirative category in the influence of Turkic languages	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『チュルク語文法の諸相 2 情報構造・知識管理』	6. 最初と最後の頁 143-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/0002000304/	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 承志	4. 巻 第41巻第1期
2. 論文標題 滿文地図與西伯利亞古地図邂逅相遇	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 自然科学史研究	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norikazu Kogura	4. 巻 -
2. 論文標題 Chapter 9 On the Verbal Suffix -ma e in Sibe: The Development of Its Morphophonology and Language Contact	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Endangered Languages of Northeast Asia	6. 最初と最後の頁 187-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/9789004503502_010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保智之	4. 巻 23
2. 論文標題 シベ語の3人称2重所有構造についての覚え書き	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Contribution to the Studies of Eurasian Languages (CSEL)	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児倉徳和	4. 巻 23
2. 論文標題 シベ語の補助動詞 yawe-の機能とシベ語における テンス・アスペクト・ムード体系の発展	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Contribution to the Studies of Eurasian Languages (CSEL)	6. 最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児倉徳和	4. 巻 -
2. 論文標題 シベ語の文法形式の形態論的ステータス 語から接辞へ?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 津曲敏郎先生古稀記念集	6. 最初と最後の頁 104-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norikazu Kogura	4. 巻 11
2. 論文標題 Sibe Text: Dancing of Sibe People	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Northern Language Studies	6. 最初と最後の頁 213-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kicengge (承志)	4. 巻 -
2. 論文標題 The "Cisan incident" as an example of "direct legal appeals" in the Qing period	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Thematic issue on Dauria and the Daur, Studia Orientalia Slovaca	6. 最初と最後の頁 179-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cheng Zhi (Kicengge)	4. 巻 -
2. 論文標題 Land Surveys in the Northeast for the 'Huangyu quanlan tu'	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Old Maps in Asia: Basic Information and Perspective for New Research	6. 最初と最後の頁 133-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 承志	4. 巻 -
2. 論文標題 石碑に刻まれた「喇嘛説」：四体合璧「喇嘛説」のマンジュ語内容の解説をかねて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 基盤教育論集; Bulletin of Institute of Liberal Arts	6. 最初と最後の頁 13-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 承志	4. 巻 -
2. 論文標題 マンジュ語『金史』の編纂 大金国の記憶とダイチン=グルン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『金・女真の歴史とユーラシア東方 (アジア遊学)』	6. 最初と最後の頁 326-333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KOGURA, Norikazu	4. 巻 -
2. 論文標題 On the bare verbal stem forms in Sibe: Imperative of irrealis?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of The 14th Seoul International Altaic Conference	6. 最初と最後の頁 221-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 承 志	4. 巻 10
2. 論文標題 《皇輿全覽圖》東北大地測繪考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西域歴史語言研究集刊	6. 最初と最後の頁 479-517
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 承 志 (Kicengge)	4. 巻 135
2. 論文標題 マンジュ語档案資料に関する国際会議	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東方学	6. 最初と最後の頁 90-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 承 志	4. 巻 第6号
2. 論文標題 石碑に刻まれた「喇嘛説」 四体合璧「喇嘛説」のマンジュ語内容の解説をかねて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 追手門学院大学基盤教育論叢	6. 最初と最後の頁 13-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保智之	4. 巻 -
2. 論文標題 満洲語口語について - 新疆ウイグル自治区のシベ語を中心に -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the 7th International Conference of Center for Manchu Studies	6. 最初と最後の頁 99-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保智之	4. 巻 6
2. 論文標題 音声言語と文献言語と歴史言語学：シベ語と満洲語と歴史言語学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史言語学	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保智之	4. 巻 -
2. 論文標題 満語、満語口語、錫伯語的語音特点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 満族・錫伯族語言歴史文化国際研討会 会議論文集	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 承 志	4. 巻 3
2. 論文標題 十八世準[口+葛]爾十六大鄂拓克 - 克[口+將の右]特鄂特克探析 (続二)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 衛拉特研究	6. 最初と最後の頁 81-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計58件 (うち招待講演 23件 / うち国際学会 39件)

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語の二重・多重所有構造と柴谷の体言化理論
3. 学会等名 2023年度ユーラシア言語研究コンソーシアム (CSEL) 年次総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 児倉徳和
2. 発表標題 シベ語と周辺言語における談話標識 da
3. 学会等名 2023年度ユーラシア言語研究コンソーシアム (CSEL) 年次総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Norikazu Kogura
2. 発表標題 On the sentence-final clitic =lya[ng]e in Sibe
3. 学会等名 Seoul International Altaistic Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Norikazu Kogura
2. 発表標題 Diachronic Development of Sibe and Language Contact with Chinese dialects: Focusing on Morphology and Auxiliaries
3. 学会等名 PARIS LCNC (Language Contact in Northern China) 3 Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語の instrumental
3. 学会等名 2022年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 承志
2. 発表標題 從“齊三越訴事件”看清代黑龍江布特哈社會
3. 学会等名 北京・中国政法大学主催「地方治理的法制傳統學術研討會」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 承志
2. 発表標題 ジュンガル帝国からの証言 17～18世紀におけるジュンガル社会と歴史
3. 学会等名 京都大学大学院文学研究科主催・第88回京都大学大学院文学研究科羽田記念館定例講演会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 承志
2. 発表標題 滿文古地圖與俄文古地圖の邂逅
3. 学会等名 北京・中央民族大学主催「滿文文献與清史研究国際學術研討会」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 承志
2. 発表標題 滿文古地圖與俄文西伯利亞地圖
3. 学会等名 長春・東北師範大学歴史文化学院主催「明清史學術論壇」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語口語の表記法（漢語での発表）
3. 学会等名 2021年「西遷節」記念研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語の3人称所有接辞が親族名称に現れる場合小考
3. 学会等名 2021年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 児倉徳和
2. 発表標題 シベ語の動詞 yawe- について
3. 学会等名 2021年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 児倉 徳和
2. 発表標題 シベ語動詞の諸形式から見るシベの移動と言語接触
3. 学会等名 満族史研究会第35回大会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 児倉 徳和
2. 発表標題 ウイグル語の発見標識 iken からみたシベ語の発見標識 biXeï
3. 学会等名 第9回国際シベ語研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久保 智之
2. 発表標題 シベ語の音韻体系と周辺言語の音韻体系
3. 学会等名 満族史研究会第35回大会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久保 智之
2. 発表標題 シベの民話を読む
3. 学会等名 第9回国際シベ語研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 承 志
2. 発表標題 シベの歴史と言語について
3. 学会等名 満族史研究会第35回大会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 承 志
2. 発表標題 「シベ」とは何か？ その歴史記述と創造について
3. 学会等名 第9回国際シベ語研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 錫伯語和滿 洲語の音韻特徴
3. 学会等名 「清代遷徙政策与文化伝新」国際研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KUBO, Tomoyuki
2. 発表標題 Phonological characteristics of Sibe and Manchu
3. 学会等名 From Literary to Vernacular: A Workshop on Manchu/ Sibe Language and Archives (Harvard University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KUBO, Tomoyuki
2. 発表標題 Velar and uvular distinction in Sibe and Manchu
3. 学会等名 Talk at Institute of Asian Studies/ Prague Descriptive Linguistics Group (Charles University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KUBO, Tomoyuki
2. 発表標題 Velar and uvular consonants in Sibe and Manchu
3. 学会等名 Workshop 'Endangered languages in Northern Asia' (Free University Berlin) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kicengge (承志)
2. 発表標題 Appeals in the Eight Banners: Taking the Cisan Incident as Example
3. 学会等名 International workshop peoples and languages of the Sino- Russian borderlands: Dauria, Palacky University Olomouc (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kicengge (承志)
2. 発表標題 Manchu Archives and the Cartographic Knowledge of the Northeast in the Huangyu Quanlan Tu
3. 学会等名 Inner Asian and Altaic Studies, Harvard University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kicengge (承志)
2. 発表標題 The Territorial Expansion of the Qing Empire and the Dzungar Nomads in the Eighteenth Century
3. 学会等名 Center for East Asian Studies, History Department, Stanford University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kicengge (承志)
2. 発表標題 Manchu Archives and the Cartographic Knowledge of the Northeast in the Huangyu Quanlan Tu
3. 学会等名 Center for Chinese Studies,UC Berkeley (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kogura, Norikazu
2. 発表標題 The development of verbal morphology in Sibe and Manchu
3. 学会等名 From Literary to Vernacular: A Workshop on Manchu/ Sibe Language and Archives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kogura, Norikazu
2. 発表標題 A brief note on the development of verbal morphology in Manchu
3. 学会等名 International Symposium “Endangered languages in Northern Asia” on the occasion of the Unesco Year of Indigenous languages (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kogura, Norikazu
2. 発表標題 The Morphological leveling in Manchu and Sibe
3. 学会等名 The meeting of the linguistic group, B02,Yaponesian genome project, grant-in-aid, MEXT (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 満洲語とシベ語の違い
3. 学会等名 満洲語文語夏期講座 「『満文大蔵経』と満洲語文語档案文書の世界」(京都大学、ユーラシア文化研究センター)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語と満洲語、現代満洲語の音韻論 Phonological characteristics of Sibe, Modern Manchu, and Manchu
3. 学会等名 国際シンポジウム「アジアにおける人の移動と人文学的変容」New Terrains in Asian Humanities (九州大学) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KUBO, Tomoyuki
2. 発表標題 Double possessive costruction in Sibe, Modern Uyghur, and Khalkha Mongolian.
3. 学会等名 2nd International Conference of Sibe Studies (Charles University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語音韻論と形態論の一端
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 承志
2. 発表標題 ダイチン=グルンの領域拡大と18世紀ジュンガル遊牧集団 マンジュ語史料による実態の解明
3. 学会等名 第63回国際東方学会議(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 承志
2. 発表標題 『満文翻訳全蔵経』に関する研究
3. 学会等名 『満文大蔵経』と満洲語文語档案文書の世界
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 承志
2. 発表標題 大清帝国時代のシベ八旗西遷とユーラシア中央域の変容
3. 学会等名 九州大学伊都キャンパス完成記念行事 人文科学研究院 国際シンポジウム「アジアにおける人の移動と人文学の変容(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kicengge
2. 発表標題 A Re-construction of Sibe History and Language
3. 学会等名 The 2nd International Conference of Sibe Studies(Charles University, Faculty of Arts)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 CHENGZHI
2. 発表標題 Manchu Achieves and the Cartographic Knowledge of the Northeast in the Huangyu Quanlan Tu
3. 学会等名 The 7th International Symposium "Old Maps in Asia" (Toyo bunko, Tokyo) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児倉徳和
2. 発表標題 動詞の不規則変化からみた満洲語とシベ語
3. 学会等名 国際シンポジウム「アジアにおける人の移動と人文学的変容」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児倉徳和
2. 発表標題 シベ語のいわゆる語幹命令形について
3. 学会等名 2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 言語学から見た東アジア
3. 学会等名 台湾大学・九州大学人文学術交流会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 満洲語口語について - 新疆ウイグル自治区のシベ語を中心として
3. 学会等名 第7回満洲学センター国際学術会議「満洲語文学と東北アジア文化」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KUBO, Tomoyuki
2. 発表標題 Some findings in the phonology of Manchu and Sibe
3. 学会等名 ベルリン自由大学における招待講演(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 KUBO, Tomoyuki
2. 発表標題 Phonological characteristics of Sibe and Manchu
3. 学会等名 満語・錫伯語的語言与歴史:回顧与展望(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 錫伯語口語的標記法
3. 学会等名 シンポジウム「清代満文档案与錫伯語時空対話」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 満語、満語口語、錫伯語的語音特点
3. 学会等名 満族・錫伯族語言歴史文化国際研討会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保智之
2. 発表標題 シベ語における形態論的借用か？
3. 学会等名 2017年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chengzhi
2. 発表標題 A Thorough Investigation of the 18th Century Dzungar Keret Otok
3. 学会等名 Beyond Empire and Borders: The Third International Conference on the Qing Dynasty and Inner Asia(Department of East Asian Languages and Cultures at Colombia University)（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 承志
2. 発表標題 満洲語と档案文書の世界
3. 学会等名 満洲語文語夏季講座2017（京都大学・ユーラシア文化研究センター）での講演
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 承 志
2. 発表標題 十八世紀準葛爾十六大鄂拓克探析
3. 学会等名 2017年中国社会科学論壇 第六回中国古文書学國際研討會議（中国社会科学院当代中国研究所）（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 承 志
2. 発表標題 十八世紀準葛爾克埒特鄂拓克始末考
3. 学会等名 國際學術討論會「從前蒙古時代至後蒙古時代的中国和中垂：歷史与文化」（中国人民大学）（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chengzhi
2. 発表標題 Manchu and Mongolian Studies in China: Past, Present and Future
3. 学会等名 コロンビア大学東アジア研究所での講演（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 承 志
2. 発表標題 『皇輿全覽図』東北大地測繪考 以滿文档案為中心
3. 学会等名 古地図學術研討會（中国人民大学）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 承 志
2. 発表標題 滿文地圖与西伯利亞地圖邂逅相遇
3. 学会等名 滿語・錫伯語的語言與歷史：回顧與展望（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 承 志
2. 発表標題 滿洲八旗中的錫伯集团探析
3. 学会等名 滿族・錫伯族語言歷史文化國際研討会（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児倉徳和
2. 発表標題 シベ語・滿洲語の名詞化要素 -ngge の機能变化
3. 学会等名 共同利用・共同研究課題「アルタイ型」言語に関する類型的研究」2017年度第2回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 児倉徳和
2. 発表標題 滿語 - 錫伯語動詞形態結構的歷史發展
3. 学会等名 滿語・錫伯語的語言與歷史：回顧與展望（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児倉徳和
2. 発表標題 論錫伯語助動詞 bi- の視点転換効能
3. 学会等名 満族・錫伯族語言歴史文化国際研討会（国際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 満文講読会*（訳編）*綿貫哲郎・児倉徳和・加藤基嗣・相原佳之・高井秀招・半田真士・神谷秀二・池田修太郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 444
3. 書名 内国史院档 順治元年 ・ 合冊本附：順治満文実録・元年十月	

1. 著者名 久保智之、菅原 睦、江畑冬生、大崎紀子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 九州大学人文科学研究院	5. 総ページ数 183
3. 書名 アルタイ諸言語を対象とした環境の変化と言語の変容に関する総合的研究	

1. 著者名 満文講読会*（訳編）*綿貫哲郎・児倉徳和・加藤基嗣・相原佳之・高井秀招・半田真士・神谷秀二・池田修太郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 156
3. 書名 内国史院档 順治元年	

1. 著者名 李林静、山越康裕、児倉徳和、風間伸次郎、山田洋平	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 256
3. 書名 中国北方危機言語のドキュメンテーション	

1. 著者名 児倉徳和	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 480
3. 書名 シベ語のモダリティの研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

シベ語出版物の目録を作成し、オンライン・リソースとして公開している： シベ語出版物総合目録 https://sibebithe.aa-ken.jp/ .
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	承 志 (Cheng Zhi) (80455229)	追手門学院大学・基盤教育機構・教授 (34415)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	児倉 徳和 (Kogura Norikazu) (70597757)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	庄 声 (Zhuang Sheng)		
研究協力者	ズィークムンドーヴァ ヴェロニカ (Zigmundova Veronika)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 第9回国際シベ語研究会	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 From Literary to Vernacular: A Workshop on Manchu/ Sibe Language and Archives	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 九州大学伊都キャンパス完成記念行事 人文科学研究院 国際シンポジウム「アジアにおける人の移動と人文学の変容」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 満族錫伯族（シベ族）語言歴史文化国際研討会	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 2nd International Conference of Sibe Studies	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	東北師範大学			
チェコ	カレル大学			
米国	ハーバード大学			

共同研究相手国	相手方研究機関			
その他の国・地域 台湾	中央研究院			
その他の国・地域 台湾	淡江大学			